

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○ 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○ 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○ 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームつきおか
（ユニット名）	2階
所在地 （県・市町村名）	新発田市本田丁1466番地7
記入者名 （管理者）	佐藤 玲子（井村 美幸）
記入日	平成 21 年 3 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている 事業所独自の理念と各ユニット独自の処遇方針を掲げ、掲示している。		2階では、「その人らしさを大切に 心身共に明るく ゆったりとした生活が出来るよう支援します」を方針とし、支援にあたっている。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる 目のつく場所に理念を掲示し、会議等で実践に向けての話し合いを行っている。		事務所・廊下に掲示し、実践できるようにしている。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる 来客者が見やすいよう玄関先に理念を掲示しており、地域の方には月1度広報を回覧し、理解していただけるよう、努めている。また、運営推進会議・家族会にて説明を行っている。	○	広報を通して理念や具体的な取り組みを伝えていく。
(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている 職員の通勤・退勤時や散歩時には挨拶を行っている。また、回覧版や広報配布によるイベントへの参加を促しているが、なかなか気軽に立ち寄ってもらう等の交流が図れていない。	○	訪問を待つだけでなく、こちらから訪問したり、定期的なお茶会等の交流機会を開き参加を促して行きたい。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている 地域の文化祭・カラオケ大会・お祭り・ごみ拾い等に参加し、地域の一員としての付き合いが増えてきている。また、小中学生の体験学習の受け入れや、幼稚園へ出かけ交流を図ったりと交流の機会を持つように努めている。	○	今後も地域の活動に参加し、交流の機会を増やして行きたい。また、幼稚園へ訪問の機会を作り、定期的に交流を行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会を通し、地域高齢者と接する機会を持っている。	○	月1度広報を回覧しており、その中で介護に関する情報や老化に伴う予防方法などを掲載し、地域の方の役に立つよう取り組みを行って行きたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員による評価票の記入を行っているが、自己評価・外部評価への理解力が乏しい現状がある。評価を活かしての改善は話し合い等を実施し取り組んでいる。	○	会議にて、自己評価・外部評価の意義を伝えており、今後の職員の意識レベルの向上を目指し取り組んで行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度会議を開き、検討事項を職員会議で話し合い、サービスの改善・向上を図っている。また、会議録を回覧したり、玄関先へ掲示している。	○	運営推進会議での意見や要望を職員会議時に報告し職員間で話し合い、サービスの向上に活かして行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との交流を持つ機会がない。	○	交流する場があれば参加し、サービスの向上に取り組んで行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部職員のみ関わりがあり、他職員は関わりがなく理解していない職員が多い。	○	研修会を開くなど学ぶ機会を作り、理解を深めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や職員間の観察注意を行い虐待防止に努めている。	○	言葉による虐待は見落としやすく、更なる注意を図り防止に努めていくと共に、今後も施設内外での研修による意識・知識の向上に努めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の不安・疑問点には、十分に説明を行い、同意を得るようにしている。		後日の疑問点などが出た場合もその都度説明し、理解を得るようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動を観察し、声かけや話し合いの場を持ち、苦情・不満に関しては、記録等に残したり報告を行い、職員間で共有し、改善に努めている。		会議にて、話し合いを行い改善を図るようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各利用者に担当を配置し、担当を中心に家族への手紙を出したり面会時に状態報告をしている。また、施設内に生活風景の写真を掲示したり、広報に記載している。職員異動に関しては、広報にて報告している。金銭管理は出納帳に記入し面会時に確認サインをもらい対応している。		面会時には、細かく生活状態・健康状態を報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行っている。また、面会時や家族会を開き意見を聞いている。	○	家族からの意見、返答を掲示したり広報に記載し他家族への情報提供を行い、更なる意見が聞けるよう行い、職員・サービスの向上に反映させて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、1階・2階合同の職員会議を開き、意見交換を行っている。また、必要時には、定例以外にも職員会議を開いている。	○	職員用の提案箱を設置しているが、活用されていない為、活用できるよう、声掛けを行っていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員必要時の人数確保は行っている。各ユニット内での確保困難時は他ユニットより職員を確保している。		職員の協力体制ができており、必要時に職員の確保ができています。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、職員の異動や入れ替えが多いので、利用者が不安を感じる事のないように、明るい雰囲気作りに努めている。		本社新規事業の開設の為、職員の異動が多数ある。新しい職員や、引継ぎを行う職員には、早く馴染んでもらうよう、配慮をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内での他の施設へ行き、研修を行っている。研修結果は職員間にて回覧している。		情報交換し、良い事を取り入れ、実施している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が地域の同業者と交流する機会が、なかなか持てていない。	○	もっと交流を増やし、情報交換を行い、向上させて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減させるための環境作りが出来ていない。	○	もっと職員同士が話しやすい環境作りをしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は時々現場に行き、利用者だけでなく、職員1人ひとりに話をする場を設けている。		職員が向上心を持って働けるよう、賞与や待遇を考慮している。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	表現することが出来にくいという事を十分に理解し、本人に寄り添う事で不安な事・求めている事を受け止めるよう努めている。		職員に、重点的に見守りを行うよう周知・徹底している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	気軽に相談できるような雰囲気作りに努めている。		ご家族の要望などは可能な限り、実現できるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にどのようなサービスが必要か、他の施設や医療機関とも連携をとり、ご家族の要望に応えられるようにしている。		早急な対応の必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応が出来るよう努めている。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個別ケアを十分に行い、職員との信頼関係が築けるよう努めている。また、ご家族には事前に施設見学をしてもらい、本人に合うかなどの検討をもらっている。		混乱時には、個別的に関わる時間を増やしている。また、居室内には馴染みのある家具の持参を促し安心できる場所や環境作りに努めている。
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が一緒に家事を行ったり、行動を共にすることで利用者から学ぶ機会を持ち、喜怒哀楽を共にできる関係を築けるよう努めている。		体操・レクリエーションを共に楽しめるよう工夫したり、利用者が持っている力を引き出せるよう家事作業を行ったりしている。
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話合う時間を設け情報の共有を行い、良い関係を築けるように努めている。また、行事計画や参加を一緒に行うことで本人と一緒に支えていく関係作りを行っている。	○	本人に対して、職員・ご家族の気持ちをお互いに話し合い、本人と一緒に支えていく関係を作り、協力体制を築いていきたい
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時には本人と家族の話をよく聞き、それぞれの立場や、思いを受け止める。 イベント時、家族に参加していただき、一緒に過ごす時間の提供と外出・外泊にて共に過ごせる時間の提供を行っている。		定期的な面会や、行事と一緒に参加する事で、一緒に楽しむ時間を提供している。
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの人や場所の把握を行い、面会にきて頂けるよう声かけをしたり、関わりを切らないように対応している。	○	馴染みの場所へ出かけられるよう計画を行い、本人に昔の事を思い出してもらったりと、楽しんでもらえるよう行って行きたい。
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ目的を持ち、一緒に行動できるよう体操・レクの時間を提供したり、利用者同士が助け合ったり、支え合える機会をつくるよう努めている。	○	トラブル時の仲裁・フォローを徹底し、利用者間での蟻りや溝を作らないよう、お互いに理解できるよう行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後であっても、必要時は面会に行ったり、連絡が取れるよう対応を行っている。		今後も、関係を断ち切る事無く、必要時は協力していき、付き合いを大切にしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別による入所前の生活状態を把握し、本人の希望に沿えるよう話し合いを行い対応している。また、本人からの希望等が聞かれない場合でも、本人にとっての最善を検討するよう努めている。		喫煙・飲酒習慣のあった方には、喫煙・飲酒時間の提供を行っている。また、日ごろのコミュニケーションの中から、本人の希望等を知り、援助に繋げていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ケースに生活歴等を記入保管すると共に、家族や本人との会話から得た情報を記載し、現在に至るまでの経過を把握できるようにし、各職員が把握に努めている。		全職員が把握できるようにし、面会時の話の中で発見した情報も記録を行い、情報の共有が出来るよう行っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一冊のファイルに一人ひとりの生活記録・健康チェックを記入し現状の変化等を把握できるように努めている。		特記事項や変化時は個人記録だけでなく、申し送り簿への記入を行い、全職員が把握できるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が気付いたことを書き出し、意見提供を求め、家族・本人の要望を聞き作成にあたっている。		生活記録での評価や生活状態を家族へ面会時に報告し、意見を求め作成にあたっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態把握を行い、極端なADL低下時やプランの実施困難な状態時には、プランの追加・変更を行っている。		状態変化時には、家族へ報告し必要時には担当者会議を開き家族・職員で検討しプラン変更を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員が記録物の記入を行い、他職員は記録物を読み情報の共有ができるようにしている。また、記録物が介護計画の見直し資料となるよう記入し対応している。	○	今後も利用者の言動を時間を追って、記録へ記入しプランの実施経過がわかるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて、通院支援・介助を行っている。また、身寄りがいない方など、冠婚葬祭などにも付き添っている。	○	今後も要望には応じていけるよう対応して行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の防災訓練を行い、消防の方と連携を持っている。また、地域の方との協力体制が取れるよう情報提供を行っている。地域公民館の行事に作品展示を行っている。		無断外出・外出による行方不明の危険性があり、地域・警察等の協力が得られるよう、施設からの情報提供を行っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月1回床屋さんに来てもらい、希望者に利用してもらっている。		サービス業者との連絡を取り合い、情報提供を行っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヵ月に1度運営推進会議を開き、地域包括支援センターのケアマネージャーには、運営推進委員として参加してもらっている。	○	情報交換や連絡を密にして行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医・かかりつけ医への情報提供を行い、必要時には他医療機関への受診を行なうなどの対応している。		受診が必要になった場合等は、家族へ状態報告し、希望の医療機関へ受診している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要時には、家族と相談し受診や治療を受けられるようにしている。		必要時は職員同行したり、書面にて情報提供を行ったりしている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護師を配置している。提携医の看護職に情報提供し、助言をもらっている。		看護職員が不在時は、電話連絡を行い対応している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、面会や連絡を密にし対応を行うようにしている。また、退院後の受け入れに対し職員間で話し合い方針を決めている。		面会時に病院との情報交換や、家族と連絡を取り合い情報交換し対応している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを行う方針ではあるが、まだ体制が整っておらず、家族の意向はそれぞれ話合っているが、具体的にはなっていない。	○	今後、十分な体制を整え家族・医師との連携を図っていく。また、職員へのターミナルケアに向けた方針を共有していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	提携医は終末期の支援に難色を示している。	○	今後、提携医の変更もありえる。職員間でも、勉強会を開き対応していけるよう、準備・検討して行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族とよく話し合い、必要時は情報提供書を活用し生活状況等を提供したり、連絡を取り合うようにしている。		今後も安心して移り住む事が出来るよう配慮していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	馴れ合いにならないように注意が必要であり、プライバシーの保護に努めて行きたい。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	職員ではなく、利用者一人ひとりの意志決定を大切にして行き、本人らしさを引き出していく支援をして行きたい。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	職員都合での生活にならないよう、業務の検討やその人らしさを再確認し支援して行きたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		外出時にはお出かけ用の衣類を身につけてもらったり、おしゃれをしてもらうようにしている。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		一緒に調理したり、片付けをしたりと個々の出来る事を、一緒に行っている。
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		職員付き添いのもと喫煙したり、夕方にお酒を飲む等、楽しみの時間の提供を行っている。また時折、夕食時にノンアルコールビールを皆さんで飲んだり、イベント行事にはワインなどのアルコールを提供したりと楽しんでもらえるよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本に、排泄パターンを記録し把握に努めている。		尿意がなく、パッド・リハビリパンツ等を使用している方でも、トイレでの排泄ができるよう誘導したり、排泄に困難がみられるようになってきている方には、本人の行動観察を行いトイレ誘導・声掛けを行っている。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を実施し、楽しみにしてもらえよう支援している。		入浴を楽しみにしてる方もおり、抵抗・拒否する方はいなく、一人ひとりが入浴を楽しめるよう支援している。
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動時間を提供し、夜間安眠できるように支援し、ソファや畳スペースにて休息できるようにしている。		本人の状態を観て、臥床時間の確保を行い身体を休めてもらえるよう対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に合った役割を提供し、その都度感謝の言葉を伝え、張り合いや喜びを感じてもらえよう支援している。		一人ひとりの出来る力を引き出し、洗濯たたみ・調理・お絞り作り・食事前の準備などの役割を提供している。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持困難な方が多く、グループホームで預かり対応している。		個別に金銭管理出納帳を作り管理している。
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日等は、散歩や日光浴など戸外で過ごし気分転換を図れるよう支援している。		天気が良く、日勤者の3人体制の時にドライブに行ったり、おにぎりを持ち外出したりと外出機会を提供している。また、四季を感じてもらえよう、外出場所を工夫している。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設としては、定期的に外出計画を立て実行している。また、本人の希望時には可能な限り対応は行っているが、困難時はご家族の協力を得て外出している。	○	自宅への外泊・外出希望者がいるが、難しい状況にあり、ご家族の協力が得られるよう説明し、可能になるようにして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、電話をかけている。		希望時は、ダイヤルを回すなどの介助を行い、電話をしやすい雰囲気にしており、長年の友人からの手紙や贈り物などがあれば職員と一緒に手紙を書いたり電話で話をしてもらえるよう対応している。
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、来て頂いた方に合わせ、リビング・畳スペースや居室にてゆっくりして頂けるよう配慮している。	○	今後もより多くの方に来ていただけるよう、声掛けをして行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へ拘束をしないケアを伝えており、職員間の見守り等に心がけているが、言葉による制止などが聞かれる事もある。	○	今後も、身体拘束をしないケアを職員へ徹底していき、研修会等を行って行きたい。
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は禁止しており、1階・2階の移動手段である階段は2ヵ所中1ヵ所は解放し、エレベーターも利用できるようにしている。		階段の解放に関して、転落等の危険があるが見守りにて対応している。今後、状態をみて、階段2ヵ所の解放を考えて行きたい。
67	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の行動パターンの把握を行い、声掛けや所在確認を行う事で本人の行動が事故に繋がらないかを見極め対応している。		記録物の記入は利用者を見守りながら、所在の把握できる所で行っている。
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物等の危険物の保管は徹底しているが、希望時には自由に使えるようにし、使用後の返却確認を行っている。また、洗剤類も棚の中に保管している。		喫煙者がいる為、ライター等は職員が管理し、使用時に付き添っている。
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの事故の起こりうる可能性を考え、見守りや対応を行うと共に、ひやりはっとや事故報告書の作成を行い今後に繋げている。		ひやりはっと・事故報告書は必ず全職員が確認しサインの記入を行なっている。また、会議で話合いの場を設け、今後の事故防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署指導による救急法を学んでいる。また、マニュアル・書面での把握を行っているが、定期的に訓練等は行っていない。	○	水銀血圧測定や吸引器の使用方法など未経験者には、適時勉強する場を設けているが、今後定期的に、勉強会を開いて行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署員の指導による避難訓練を職員・利用者で行っている。自治会には文書にて協力を依頼しているが、消極的である。	○	地域の方からの協力が得られるよう、広報の回覧を利用し情報を提供すると共に、訓練へ参加してもらえよう検討し働きかけて行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	生活の中で生じてくるリスクに関しては、ご家族に報告し必要時には、話し合いの場を持ち説明を行っている。		会議で家族の意向を取り入れ検討を行い対応を行っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタル測定や状態観察より、日常と違う状態の時は、本人の訴えや症状の観察を詳細に行い、記録に残し必要に応じて、受診に繋げている。		状態変化時は、職員間の情報交換を行ない、共有すると共に、観察を強化し変化がない場合や悪化状態が見られた場合は、看護職員・管理者への報告を行い、医師との連携に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に関しては、処方箋を個人ケースに添付し変更時は申し送りを行い理解に努めている。		配薬ケースには、一人ひとりの内服薬名を貼り、服薬介助時に確認できるように行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操や運動・マッサージの提供を行い、水分摂取に努めている。		午前中に体操時間を確保し、全員参加に努め、個別的にも運動時間を提供している。また、水分摂取量の確保を行い、必要時には、チェック表の記入を行い把握に努めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け・誘導を行い徹底している。		義歯使用者は夕食後に預かり、夜間帯に洗浄消毒を行い、翌朝に渡し対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録記入を行い把握に努め、摂取時に少ない場合は声掛けや介助を行い対応している。		一定の食事摂取量の確保が困難な場合は、捕食の検討を行ったり、医師へ報告しエンシュア等の処方を行ってもらい対応している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルがあり、予防・対策に努めている。また、予防接種等を行っている。		食事前にお絞りで手を拭いて頂いている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具・ふきん等の消毒の徹底に努めている。		毎日、冷蔵庫の整理・消毒を行い、食中毒の恐れがあるものがないかの確認を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の整理整頓を心がけ、季節の植木や花を配置している。		建物の入り口には、看板の設置を行っており、気軽に立ち寄ってもらえるように呼びかけている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・時間を考慮し電気等の調整を行い、装飾にも工夫をしている。		季節感が感じられる装飾を行い、外出時の写真や日常の写真を掲示している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳スペース・ソファースペースを利用し、思い思いに過ごせるよう空間作りを行っている。		その場に合わせ、ソファの位置や向きの変更を行ったり、過ごしやすいよう工夫し対応を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、自宅で使っていた愛着のある家具を持参してもらい、本人にとって居心地の良い環境作りに努めている。		家具だけでなく、雑貨や写真などもご家族に持参してもらったり、誕生日・イベント等で職員からのプレゼント等を行っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜換気を行い、外気温等を考慮し温度調整を行っている。		温度計設置によるチェックやリビング・廊下・居室の温度差を軽減できるよう対応すると共に、利用者の着衣による調整等行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう、利用者の状態に合う位置に手すりが設置され、バリアフリー対応となっている。		ADLの低下がみられる方が多く、浴室への手すりを追加設置するなどの対応を行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱時や失敗時の原因追究の話し合いを行い環境作りを行っている。		一人ひとりのわかる力を活かし、混乱が生じないように作業提供を行ったり、環境を整え工夫している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや出窓に季節の花や植木を飾り、水をあげたり、鑑賞して楽しめるよう工夫している。		利用者とプランターに球根を植え、植えた方の名前を貼り、花の咲くのを楽しんだり、ベランダに残りご飯を置き、スズメが寄って来る姿を観たりと楽しめるよう活かしている。

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
		○	数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
		○	職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その日の天候状況で、ドライブや外出を計画し実行したりと、利用者の楽しめる・気分転換になる事の提供を行っている。
午前中に元気体操・レクリエーションの活動時間の確保を行い、ADL低下の防止に努めている。